

岐阜県関市立瀬尻小学校

問い合わせ先：電話番号 0575-22-3120
FAX 0575-24-7971



I 学校の概要

1 児童生徒数、学級数、教職員数

児童数 482 名、学級数 19、教職員数 34 名。

4 年生のみ 2 学級、他の学年は 3 学級編成で、特別支援学級が 2 学級の中規模校である。

2 地域の概況

校区の中央を長良川が流れ、田園が広がる美しい自然環境に恵まれた歴史文化の豊かな地域である。円空入定の地があり、弥勒寺跡は国指定史跡弥勒寺官衛遺跡群となっている。小瀬鵜飼は地域の誇る県指定文化財である。小瀬獅子舞は江戸時代から継承されている。一方、校区の東は東海北陸自動車道、西は MAG ロード（東海環状線）の東回り開通にともないその様相を大きく変えようとしている。

本校は、明治 5 年に永昌寺に文開義校として開校し、明治 38 年に瀬尻尋常高等小学校となった。その後、昭和 22 年に新学制のもと瀬尻小学校となり、昭和 32 年に校区西の広見地区が関市に合併し、現在に至っている。

（学校の裏山「松尾山」）



3 環境教育の全体計画等

学校の教育目標：自らとりくみ、やりとげる子 一よさを発揮する子
環境教育の目標：自然に学び、自然を愛護する心豊かな児童の育成
願う児童の姿：環境と人間との関わりについての理解を深め、環境保全に主体的に取り組む子
学年別指導目標 低学年：体験を通して地域の自然に関心が持てる子 （良さの発見） 中学年：地域の自然に親しみ、進んで関わることができる子（問題発見・調べ学習） 高学年：自然に関心を持ち、進んで働きかけようとする ことができる。 （問題追及・積極的な働きかけ）

以上のような目標を掲げ、「教科」「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」に具体的な指導を行っている。

また、「ぎふ学校班 ISO」「牛乳パックの回収」「ごみ 0 の日」の活動も行っている。

家庭・地域との協力においては、緑が丘中学校下の通学路などのクリーンアップ作戦。青少年健全育成協議会との連携による長良川クリーンアップ作戦。関市の出前講座によるカワゲラウォッチング。PTA のリサイクル活動などに、児童と共に参加している。

II 研究主題

「自然に学び、自然を愛護する心豊かな児童の育成」

III 研究の概要

1 研究のねらい

校区は豊かな自然環境に恵まれているにもかかわらず、子ども達の自然体験は少ない。その自然環境が壊されていたり、生態系が乱されていることには気づいていないことが多い。そこで、これまでの取り組みを継続しつつ新たな取り組みを生み出したり、グローブ事業により環境を調査したりして、本校区の環境的な特色を少しでも明らかにすることを通して、校区の自然を愛護する心豊かな児童の育成を目指したい。

2 校内の研究推進体制

グローブ研究推進委員会（校長、教頭、教務主任、理科主任、英語主任、情報主任、各学年主任）をもち、教務主任・主題研究推進委員長（グローブティーチャー兼理科主任）を中心に、校長の監督のもと全校体制で研究を進めていく。

具体的な調査、観測、観察活動は、SV 活動（児童委員会活動）及び、4・5・6 年生が行う。また、グローブ活動に関わる環境についての取り組みは、各学年が中心となって進めていく。取り組みの経過は、学級通信、

学校通信、諸会議、地域住民との交流、市の環境フェスタなどで行っていく。

3 研究内容

（1）グローブの教育課程への位置付け

観測については、一日の日課の中の休み時間を中心に行う。

環境に関する取り組みについては、

1・2年生：生活科

3～6年生：理科、総合的な学習の時間を中心に教育課程の中に位置づけて行う。

（2）グローブを活用した教育実践

観測の取り組みについては、児童委員会活動であるSV（セジリボランティア）活動の中で、「自然大切隊」の活動として行った。毎日の気象観測は、5年生2名、6年生2名の立候補者で観測した。水質検査は6年生3名の立候補者で週に1回の観測を続けてきた。グローブ本部へのデータの送信については、随時児童の力できるように援助してきた。観測には、グローブティーチャーでありフリーの理科主任が指導に当たった。

グローブ活動に関わる「環境教育」としては、各学年で次のような活動を行ってきた。

①にこにこ学級、なかよし学級（特別支援学級）



「大豆を育てよう」：地元の豆腐屋さんと関わりを持ちながら、大豆を育て、収穫し、豆腐作りまでを体験した。また、「野菜作り」として、大豆以外に大根やジャガイモなどを育てる体験をし、こういう活動の中で自然を大切にしようとする心情を培ってきた。



児童の感想から

「今日、私は、しば屋の社長さんの金子さんと、とうふを作りました。にがりをなめてみました。おいしかったです。ミキサーで作って、しばってみました。楽しかったです。じょうずに教えてくれて、うれしかったです。」



②1年生の取り組み

生活科「いきものたんけんたい」のなかで、親子で「ザリガニみつけ」「草むらの生き物みつけ」を行った。また、「花をつくろう」の単位では、アサガオやチューリップを育てた。このような活動を通して身近な自然に関わり命ある物を大切にしようとする心情を培ってきた。



「ザリガニみつけ」児童の母のお便りから

「とても暑かったですね。たくさんザリガニやおたまじやくしが採れて大満足でした。どの辺りをたもでさぐろうか考えながら必死でした。自宅近くでいつも採っていたので、子どものこつを押さえているようでした。」

後日の連絡帳から

「今日は、『うれしいことがあったよ。』とただいまの言葉よりも先でした。『ぼくのザリガニと赤ちゃんをクラスで観察することになったよ。』と大喜び。毎日どんな感じだったか、報告してくれていました。『お家でお世話するより、みんなと一緒にの方が楽しいよ。』と、ザリガニさんにいろいろなことを学ばせてもらっているみたいです。」



「虫取り」の児童の感想から

「わたしは、てんとうむしをつかまえました。てんとうむしがクローバーにのって、とってもかわいかったです。ちょうちょやおおろぎもつかまえました。とってもたのしかったです。」

「わたしは、おともだちといっしょうけんめい、むしをさがしてつかまえました。こおろぎをつかまえたよ。つかまえたばしょは、くさがぼわぼわはえているところです。」

③2年生の取り組み

生活科「さつまいもを育てよう」では、学校園でさつまいもを育て、親子でさつまいも料理会をもった。また、「季節を見つけよう」では、それぞれの季節でみつける自然を活用した遊びづくりをしてきた。特に、秋には、1年生を招待して「秋祭り」を行った。このような活動を通して進んで自然に関わる態度を培ってきた。



2年生児童の感想

「今日は1年生の子を教室にしようたいしました。折り紙でうさぎやメダルの作り方をおしえるのがむずかしかったです。たくさんの子がきたのでおちばがおちて、そうじするのがたいへんでした。でも、1年生の子がよろこんでくれたのでよかったです。」

「今日はさつまいもパーティーがありました。ぼくは、お母さんといっしょにいもをきり、ピーラーでかわをむきました。いもを丸めたりしてとても楽しかったです。」



③3年生の取り組み

せじりタイム(総合的な学習の時間)「杉山さんと円空いもを育てよう」で、地域の杉山さん(円空いも開発者)、農業改良普及センターの皆さんと共に、円空いもを育て、親子で料理会を行った。このような活動を通して、地域の自然と地域の人々がどのように関わっているかを学び、自然を大切にしようとする心情を培ってきた。



「円空いものうえかた」児童の感想から

「円空いもをうえるあなのふかさは、10cmです。円空いもは、土の中に少しおしこみます。少しおしこんだら、上から土を3cmから5cmくらいうめます。円空いもの色は茶色です。形はまるいです。」





「円空いもほり」児童の感想から

「根がたくさんありました。ひげみたいでした。円空いもは重かったです。1個うえたところから、とてもたくさんできていました。25個もありました。うれしかったです。」

そして、親子でメニューを工夫して料理を作り、円空いもパーティーをしました。



⑤4年生の取り組み

せじりタイム「瀬尻の自然環境を守ろう」で、関市役



所生活環境課及び岐阜県博物館学芸員の指導の下、春と冬にカワゲラウオッチングを行い、春よりも冬の方が多くいることを知った。また、地域の財産である小瀬鵜飼

について調べ学習を行い、長良川の自然環境の変化についても学んだ。また、理科「季節の自然をみつけよう」では、学校の裏山である「松尾山」の登山を通して、四季の自然の変化をみつけてきた。理科「星の動き」では、関市教育委員会まなびセンターの担当者と共に「星空観察会」を行った。このような活動を通して、地域の自然環境について知り、進んで自然を守ろうとする態度を培ってきた。



「松尾山登山」児童の感想から

「松尾山に行ってみて、こんなにいっぱい自然があるなんて初めて知りました。山は初めて登ったので、きんちょうしたり、ころびそうでこわかったけど、とても楽しくて、気持ちよかったです。」

「どんぐりは横に埋めると育ちやすいなんて初めて知りました。カラスは2種類いるそうです。頂上は土がふわふわでした。頂上から見る景色はすごかったです。」



「鵜飼船に乗って」児童の感想から

「小瀬鵜飼に行きました。その日は、少し川の水が多かったので、あゆがいっぱいいて、鵜があゆをいっぱいつかまえていました。それに、満月で涼しくて『こんな日は、なかなかないよ。』と鵜匠さんが言ってみえました。」

「鵜匠さんは、とても真剣にやってみえました。鵜も拍手をすればするほどがんばってやってくれたので、鵜の口からあゆがでてくるところも見えました。鵜飼船が近くに来たときはとても温かかったです。長良川にきれ

いな火がうつっていました。とてもきれいでした。」

⑥5年生の取り組み

理科「天気の変化」で、気象観測や水質検査の学習をし、SV活動で行っている気象や水質観測について学んだ。また、「松尾山登山」を通して、川の流れを見、「水のはたらき」の学習もした。このような学習を通して、身近な自然に進んで関わり、地域の自然を見直していかうとする態度を培ってきた。

（松尾山から見た長良川）



「松尾山登山」児童の感想から

「いろいろなところに、赤い実やどんぐりがあっておもしろかった。長良川の流れも見えた。流れる水の働きでやった実験で見たことが本当だったからすごいと思った。」

「やっぱり、上から見たら明らかに外側の方が流れが速かった。それに、上から見て『やっぱり長良川ってきれいなあ。』と思った。」

「山のとっぺんのほうが明るいのは木の種類が違うからだというのにはびっくりした。ドングリの上のつんつんの方から根が出ていて転がらないようにしていたことがすごいと思った。」



⑦6年生の取り組み

理科「人と自然環境」の学習の中で、「松尾山登山で

地域の自然環境を考えよう」に取り組んだ。森のなりわい研究所所長伊藤栄一先生の指導の元、一緒に登山をし、3学期には講演をしていただいた。このような学習を通して地域から日本そして世界の環境にも目を向け、自分自身が自然にどう関わっていくかを考えさせ、積極的に自然を守ろうとする心情を培ってきた。

「伊藤栄一先生のお話を聞いて」児童の感想から

「環境、木についての話を聞きました。昔の人は、木を薪や炭にして使っていて、一度切った木を30年待って使うという使い方をしていたことが分かり、昔の人たちは環境に優しい暮らしをしていたんだなあと思いました。地球には木の生えやすいところと生えにくいところがあって、日本は生えやすいところだからこそ、率先して木を植えていかなければダメだなあと思いました。このお話で、あらためて、地球のことについて考えることができて良かったです。」



「今日は、人工林や自然林などの話を聞き、森林についての興味をもつことができました。日本は、日本の木よりも外国の木をたくさん使っていると聞いて、ぼくは、『日本は世界の木を減らしているんだ。日本の木も使わなければいけない。』と思いました。山の木を切りすぎてしまうと、そこに住んでいる動物にも悪いし、一度木を切ると成長するまで10年以上のとても長い時間がかかる。それに、二酸化炭素を吸って酸素を出してくれる木を減らしてしまうと地球温暖化にも関係してくる。これからは、地球の環境のこともしっかり考えていきたい



いと思いました。」

「伊藤先生の話聞いて、日本には原生林が8%しかないことが分かりました。環境に優しく、木を使ったり、薪ストーブにしたりする暮らしも自然な感じで良いなあと思いました。地球温暖化を止めるためにも環境にやさしいことを心がけたいと思いました。私たちの関市は、まだ自然（山・森）がたくさんあって、山登りをしたり、自然と触れ合ったりできるので、それはとても幸せなことです。」



（秋の松尾山）

⑧家庭・地域との連携

瀬尻小学校区青少年健全育成協議会、瀬尻小学校PTAの主催で「親子長良川クリーンアップ作戦」も行った。また、児童の委員会活動の中で、牛乳パックやアルミ缶の回収を行い、リサイクル活動にも取り組んだ。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

気象や水質の観測を委員会活動の中で行うことで、児童のみで観測できるような体制ができた。また、その委員会を中心にして、気象観測や水質検査の結果をグローブ本部に送ることができた。瀬尻校区の環境が広くは地球規模で成り立っていることや、地域の生態系に地球環境が影響していることを知るきっかけができた。

また、本校の裏にある里山の「松尾山」にPTAや地域の方々の協力のもとに登山道を整備することができた。それによって、3年生から6年生までが1回以上登ることができ、少しでも大きなスケールで自然を見つめることができた。そこでは、森のなりわい研究所長の伊藤栄一先生に来ていただき、一緒に山に登って子ども達に直接指導していただいたことで、子ども達が身近な自然に対して進んで関わろうとする意識が育ってきた。

評価として、児童の感想文や報告文、問題解決学習の過程変容の情報を蓄積するようにした。

2 研究の課題

気象や水質の観測を一部の児童としたことで、教員がいなくても観測できるようになったが、学年や全校への広がりには弱い面があった。少しでも多くの子に観測の体験をさせ、全校にどんな取り組みをしているのかを児童の手で広めていく必要があった。

環境教育としては、どの学年も取り組んでいるが、それがグローブ活動とどのようにつながっているのかの職員間の共通理解を深める必要がある。

V 研究第2年次の活動計画

大気観測・・・天気、気温、最高・最低気温、雲、飛行機雲、気圧、相対湿度を測定する。測定は、SV活動の中で昼休みなど休み時間を活用して行う。データは職員の指導のもと、児童の力で送信する。

水質観測・・・長良川支流としての曾代用水の支で定点観測を行う。測定は、週に1回SV活動の一つとして行う。次年度は、これに酸性雨の観測も位置づけていきたいと考えている。

また、総合的な学習の時間の4年生の活動の一つとして、カワゲラウオッチングによる水生昆虫の生息数変化についても定量観測を行う。

フェノロジー・・・今年度学校の裏山である「松尾山」の登山道整備を行った。その里山のアベマキをもとに、調査を進める。調査は、総合的な学習の時間で6年生が行う。また、植樹したクヌギが1本ありその様子も観測する。

その他、環境に関わる活動として、特別支援学級は「生活単元学習」、1・2年生は「生活科」、3～6年生は「理科」及び「総合的な学習の時間」で、環境に対する取り組みを行っていく。3年生については、「社会科」の自分たちが住んでいる地域を全体的に見るために「松尾山」山頂から眺める学習を行っていく。

そして、環境や生態系を問題解決的に学び、その学びを通して培った、ものの見方考え方をもとに、歴史、自然、人々の営みについて学校での教科学習や家庭での学習などで考えさせる。そして、その考えを地域や関係諸機関も含め様々な所へ発信していく。

平成20年度には、児童の感想文や報告文などを通して、問題解決学習の過程変容の情報を蓄積し、各学年毎に、具体的な成果を明らかにしていきたい。